

『リアルタイムな記録』を認識することによる看護師の超過勤務短縮の試み

田中彩子 渡部杏香 細矢菜緒 泉 有紀
佐藤百音 富田紗也花 山口千春

IRYO Vol. 79 No. 3 (158-162) 2025

要 旨

国立病院機構山形病院では看護師の働き方改革が求められている。山形病院5病棟看護師の看護記録にかかる超過勤務時間を短縮させるために、医師等からの指示を確認した時点で記録まで残す、チーム内で、ローテーションで記録ができるように声掛けを行うなど、リアルタイムな記録を中心とした取り組みを実施した。取り組み前の3カ月と取り組み後の3カ月を比較すると、看護師全体（師長を除く30名）では看護記録にかかる超過勤務時間（勤務日数当たり、分）はそれぞれ46.3分、47.1分で違いがなかった。しかし、個々の看護師でみると減った人（14名）と増えた人（16名）に2分され、ほぼ半数の看護師には有効であった。減少群は増加群に比べて取り組み前の看護記録にかかる超過勤務時間が有意に長く、取り組み後には群差がほぼなくなった。今回の取り組みは、全体的には効果がなかったが、看護記録にかかる超過勤務時間を平均化する効果があったといえる。

キーワード 超過勤務、看護記録、働き方改革

はじめに

国立病院機構山形病院5病棟（当病棟）は神経内科、てんかん科、脳神経外科の混合病棟である。人工呼吸器を使用している状態にある患者が多く、約8割の患者が日常生活動作（activities of daily livings: ADL）全介助であるため、看護必要度が高い¹⁾。また、言語的コミュニケーションが困難な患者が多く、患者の訴えの理解にも時間を必要とする。そのため、勤務時間外まで業務している看護師が多い。令和4年度に看護師の超過勤務時間を短縮させるこ

とを目指して、当病棟看護師の超過勤務の実態を調べた²⁾。その結果、超過勤務時間は月平均17.5時間で、これは日本看護協会による全国調査結果³⁾とほぼ同じであった。この内、ほぼ50%が看護記録にかかるもので、患者対応は30%であった²⁾。看護記録は直接的なケアと比較し優先順位が低いためどうしても後回しになってしまう。看護記録に時間がかかり、これが超過勤務の要因になっていることはこれまでも報告されている⁴⁾。看護記録は看護実践の証拠となるもので、正確な記載が求められる⁵⁾。そのため、これに要する時間を短縮させることは容易

国立病院機構山形病院 看護部 †看護師
著者連絡先：山口千春 国立病院機構山形病院5病棟 看護師長
〒990-0876 山形県山形市行才126-2 国立病院機構山形病院
e-mail : yamaguchi.chiharu.vq@mail.hosp.go.jp
(2024年5月9日受付 2025年4月18日受理)

Attempt of Recognizing the Real-Time Recording to Shorten the Overtime Work of Nurses
Saiko Tanaka, Kyoka Watanabe, Nao Hosoya, Yuki Izumi, Mone Sato, Sayaka Tomita and Chiharu Yamaguchi
Nursing Department, NHO Yamagata National Hospital
(Received May 9, 2024, Accepted Apr. 18, 2025)

Key Words : overtime work, nursing records, work style reform